

平成30年7月12日(木)
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

記者発表資料

平成29年度優良業務及び優秀技術者の事務所長表彰について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、平成29年度に完了した業務の中で特に優れた成績を収めた業務及び技術者について、平成29年度優良業務及び優秀技術者表彰式を下記により執り行いますのでお知らせいたします。

記

1. 日 時

平成30年7月17日(火) 14時00分から

2. 場 所

横浜港湾空港技術調査事務所 2階 会議室
(神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4)

3. 表彰件数及び人数

優良業務 2件
優秀技術者 2名

4. 当日の取材について

取材希望の方は、当日会場にて受付をお願いいたします。
また、写真撮影等は式の進行の妨げにならないようお願いいたします。

発表記者クラブ
竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ

問い合わせ先
所属 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所 担当 調査課長 遠藤 正洋 (えんどう まさひろ) 電話 045-461-3892

平成29年度優良業務及び優秀技術者の表彰について

1. 目的

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所が発注し完了した業務において、その成果及び業務への取り組み方が優秀であり他の模範となるものを表彰することにより、技術力の向上及び円滑な事業の推進に資することを目的としています。

2. 表彰される件数、人数（下表参照）

- (1) 優良業務 2件
- (2) 優秀技術者 2名

3. 業務の概要及び表彰理由（資料参照）

4. 表彰式

表彰式は、横浜港湾空港技術調査事務所長その他、事務所幹部が出席して、優良業務受賞の2社と優秀技術者受賞の2名が出席予定であり、事務所長から表彰状が授与されます。

優良業務及び優秀技術者

業務の名称	優秀技術者氏名 職種	業者名 代表者名 住所
既存観測機器等を活用した 防災力強化方策検討業務	若崎 正光 管理技術者	(一財)沿岸技術研究センター 高橋 重雄 東京都港区西新橋一丁目14番2号
鹿島港長周期波対策施設水 理模型実験(その2)	長谷川 巖 管理技術者	(株)エコー 柴木 秀之 東京都台東区北上野二丁目6番4号

優良業務及び優秀技術者局長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 会社名	いっばんざいだんほうじん えんがんぎじゆつけんきゆうせんたー 一般財団法人 沿岸技術研究センター		
ふりがな 技術者名	わかさき ただみつ 若崎 正光	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	きぞんかんそくききとうをかつようしたぼうさいりよくきょうかほうさくけんとうぎようむ 既存観測機器等を活用した防災力強化方策検討業務		
履行期限	(自) 平成29年7月14日 (至) 平成30年3月20日		
事務所名	横浜港湾空港技術調査事務所		
業務概要	本業務は、関東地方整備局港湾空港部各事務所等に設置されている既存観測機器等、及び近年防災への利用が期待されているドローンを活用した防災力の強化方策の検討を行うものである。		
表彰理由	港湾空港部内各事務所等に設置されている波浪観測装置や地震計、港湾業務艇に設置されているカメラ等のほか、近年防災への利用が期待されているドローンを活用して、災害発生時における災害対策本部の意思決定支援ツールの開発を最終目的とするもので、その足がかりとなる業務である。受注者は、各種災害対応やドローン活用にあたっての専門的な知識を有する人員を配置し、新たな知見や各種観測機器等の現状の運用状況等について、自ら積極的にヒアリングやアンケート調査を実施し検討に反映するなど、本業務に取り組む姿勢は評価に値するものであった。また、有識者等を交えた3回の検討委員会の運営にあたって、わかりやすい資料の作成、資料の事前説明等の準備をしっかりと行い、活発な議論の場となるよう努めた。		

ふりがな 会社名	かぶしきがいしゃ えこー 株式会社 エコー		
ふりがな 技術者名	はせがわ いわお 長谷川 巖	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	かしまこうちょうしゅうきはたいさくしせつすいりもけいじつけん 鹿島港長周期波対策施設水理模型実験(その2)		
履行期限	(自) 平成29年11月17日 (至) 平成30年3月20日		
事務所名	横浜港湾空港技術調査事務所		
業務概要	本業務は、鹿島港北海浜護岸に関する二次元水理模型実験を行い、護岸前面に設置する消波構造物の長周期波低減効果について整理・解析するものである。		
表彰理由	実験施設に縮尺50分の1の実験模型を設置し、有義波高0.5mの長周期波を用いて護岸前面に設置する消波構造物の低減効果を整理・解析し、長周期波対策施設の断面選定の基礎資料とするものである。受注者は、長周期波に関する専門的な知識を有し水理模型実験の経験が豊かな技術者を配置するとともに、現場条件を踏まえてブロック規格、離隔距離及び天端幅を適切に設定し、風波の反射率の変化を確認する技術的課題に対して積極的に発注者と意思疎通を図った。また、波が水面直下のブロックを通過する際の流れを視覚的にとらえるために着色液を使用して工夫するなど、業務に対する前向きで柔軟な姿勢が見られた。この上で、所定の反射率に抑え、かつ経済的となる断面を提案し業務目的を十分に満足する成果を上げた。		